

れき ぶん

となん歴史民だより vol.54

Morioka tonan history and folklore museum

平成30年3月30日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



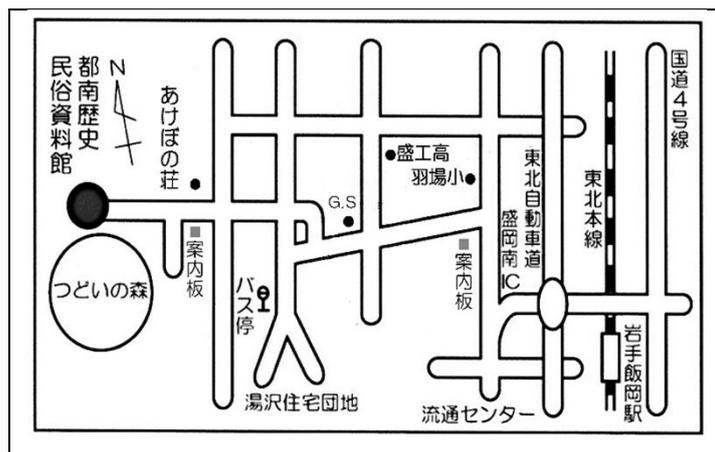
市民参加展「鎌田コレクション 第8回旧暦ひなまつり」

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 資料館からのお知らせ
- 市民参加展開催のご案内
- 平成30年度企画展のご案内
- 資料は語る(54)
- 盛岡市所在
指定・登録文化財紹介
(54)
- となんの昔ばなし(54)

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間

午前9時から
午後4時まで

入館料

無 料

休館日

月曜日

(休日に当たるときは、直近の平日)、年末年始

資料館からのお知らせ

となん・かけはしの会会員募集

当館では、「となん・かけはしの会」の会員を随時募集しております。当会は、事務局である当館を主体とし、市内在住の会員を中心に活動しています。主な活動は、①茶話会（年6回の講座）②当館事業への協力③史跡・文化財巡り（年1回）です。このほか、会員の調査・研究について意見交流する機会や当館所蔵資料についても紹介しておりますので、ぜひご参加ください。

「となん・かけはしの会」に関するお問い合わせは、当館で受け付けております。お気軽にお問い合わせください。（盛岡市都南歴史民俗資料館 019-638-7228）



史跡・文化財巡り（九戸城跡）



茶話会の様子

社会科見学による利用のご案内

当館では、例年市内の小学校を中心に社会科見学でのご利用を受け付けております。都南地域で使用されていた生活に関わる道具を常設展示で紹介しており、小学校でとりあげられる昔の生活の学習内容に対応しています。また、資料の貸出にも対応しておりますので、お気軽にお問い合わせください。



市民参加展

「鎌田コレクション 第8回旧暦ひなまつり展」

当館では、平成30年3月17日(土)～4月22日(日)の期間、市民参加展「鎌田コレクション 第8回旧暦ひなまつり展」を開催しております。今年で8回目の開催となる本展は、旧暦の時期に合わせて開催しており、華やかな行事と春の訪れを同時に楽しむことができる内容となっております。

市内在住の収集家である鎌田氏所有の多様に表現された雛人形を中心に、花巻市在住の西村氏所有の華やかさと細やかさで人気の貝雛を展示しています。また、都南地域では、雛祭りの時期に花巻人形などを飾りお酒や菓子などが供えられていました。豊富な種類と、華やかな色合いと花模様で表現された花巻人形は、春の時期にふさわしい人形といえます。花巻人形とともに、雛祭りの時期に供えられていた花饅頭の型も当時の写真と合わせて展示します。



花まんじゅうをつくる様子（市内湯沢）

盛岡市都南歴史民俗資料館 市民参加展
鎌田コレクション
第8回旧暦ひなまつり展



平成30年3月17日(土)～4月22日(日)



貝雛

【開館時間】9～16時 【入館料】無料
【休館日】月曜日(祝日の場合は翌平日)
【会場】盛岡市都南歴史民俗資料館

盛岡市都南歴史民俗資料館
場所：盛岡市湯沢 1-1-38(都南つどいの森内)
連絡：019-638-7228(TEL/Fax)



平成30年度企画展のご案内

企画展「都南歴史民俗資料館新収蔵資料展」

平成30年6月16日(土)～8月26日(日)

企画展「資料からみる昭和の暮らし」

平成30年10月6日(土)～12月16日(日)

市民参加展「鎌田コレクション 旧暦ひなまつり展」

平成31年3月16日(土)～4月21日(日)



資料は語る 54



【第 25 回国民体育大会 トーチホルダー】

資料は、昭和 45 年(1970)本県で初の開催となった第 25 回国民体育大会の大会旗・炬火リレーのトーチホルダーである。当時、平泉中尊寺で採火された炬火は大会旗とともに県内の全市町村をリレーされ、1 区間 23 名で編成されたりリレー隊の先頭を走る炬火保持者と後ろの炬火副保持者がトーチを持った。資料は、旧都南村の久保屋敷部落入口区間のリレー隊において炬火保持者が持っていたトーチのホルダーである。

参考文献：日本体育協会、文部省、岩手県『第 25 回国民体育大会 大会旗・炬火リレー実施要綱』(日本体育協会、文部省、岩手県、1970)、第 25 回国民体育大会岩手県実行委員会事務局『第 25 回国民体育大会報告書』(第 25 回国民体育大会岩手県実行委員会、1971)

盛岡市所在指定・登録文化財紹介 54
市指定有形民俗文化財



道標・庚申供養塔(文化四丁卯年正月吉日)

道標・六字名号塔(弘化二乙巳年二月十六日)

道標・庚申供養塔(明和七寅年)

盛岡城下と沿岸宮古を結ぶ宮古街道の道しるべとなった石碑群で、指定された 3 基はいずれも花崗岩である。文化 4 年(1807)の庚申供養塔には「右かわめ」「左みやこ」、弘化 2 年(1845)の六字名号塔には「右ハみやこしんみち」「左ハみやこみち」とあり、宮古街道の歴史を知る手がかりとなります。

参考文献：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)

『飯岡山の赤衣和尚』 となんの昔ばなし五十四

昭和のはじめころのお話です。飯岡山の南側の中腹に大岩があり、その大岩はまるで長い黒髪の女性と赤い衣をまとった和尚さんが合掌している姿のようでした。ありがたい仏様の化身だということで、噂はたちまちに広がり見物人が押しかけ行列ができるまでになりました。光の具合かどうか、そのように見えたといえます。その大岩も、数年すると摩耗したため、女性と和尚さんの姿は消えてしまったといえます。

出典：『となんの民話』(都南歴史民俗資料館、一九八八)

※こちらで紹介している民話は、冊子「となんの民話」に収録されています。市内の図書館のほか、当館でも貸出をしております。お気軽にお問い合わせください。

となんの民話



都南村歴史民俗資料館